

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870400227
法人名	医療法人 青峰会
事業所名	グループホーム 夏みかん
所在地	愛媛県八幡浜市八代4番地
自己評価作成日	平成24年8月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>木造建築で、何となく自宅で過ごしているような安心感がある。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成24年9月19日

<p>●毎日、娘さんが来てくださり、一緒に散歩をされる利用者がおられる。利用者ご本人は、娘さんの訪問を楽しみに待っておられるようだ。息子さんとご自宅の様子を見に戻ったり、ドライブを楽しまれる方もある。ご自宅の郵便物を確認したり、必要なものを持って来られるよう職員が付き添い、支援している方もある。母体病院に入院中、お世話になった「リハビリの先生に会いたい」と希望する方には、職員が母体病院の方に用事のある時、一緒に行けるよう声をかけて、先生に会えるよう支援されている。事業所を退居して、ご家族と一緒に住むようになった方もおられ、管理者は、時々電話して、お変わりないかおしゃべりしながら様子を聞いておられる。</p> <p>●天気の良い日は散歩に出かけたり、事業所の敷地内で、外の景色を見ながらおやつを食べることもある。近所に魚屋があり、散歩がてら注文しておいた食材の魚を取りに行かれることもある。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 夏みかん

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

廣瀬 浩美

評価完了日

24 年 8 月 27 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 「認知症であっても、ひとりひとりが地域の中で当たり前暮らしながら人間の尊厳を大切に生きていく」ことを理念として、その人らしく生活できるよう日々意識し支援している。</p> <p>(外部評価) 管理者は、これまでに一度、職員と理念を見直すことについて話し合われたことがあるが、「地域の中で当たり前暮らし」という観点からも、事業所開設時に作成した理念には「地域密着型サービスの意義を踏まえた志が示されている」ことを職員と確認されて、理念を継続して掲げることにされた。理念は、玄関や居間に手作りの短冊や額縁で掲示されていた。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 毎月、居宅で生活していた頃から八日市に買い物をしてきた方が入居されたので、他入居者を誘って継続している。また隣接する共同作業所の方々と一緒に餅つきをしたり、お天気の良い日は近くの魚屋に利用者と一緒に買い物に行くこともある。</p> <p>(外部評価) 敷地内にある法人託児所の子ども達が、散歩等に立ち寄ってくれている。事業所で行う敬老会には、お遊戯を披露してくれたり、手作りの壁掛けをプレゼントしてくれ、利用者はたいへん喜ばれた。地域の中学校から「福祉体験学習」の依頼があり、今年度は10月に、3名の中学生の訪問がある予定になっている。利用者は、生徒達と一緒にゲームを楽しんだり、食事の準備をされるようだ。9月に事業所で行った「夕涼み会」時には、区長や公民館長にも案内されたが、参加していただくには至らなかったようだ。事業所では、今後は、地域のいろいろな方に参加していただけるように、「地域内にポスター等を貼らせていただく」ことを考えておられた。</p>	<p>さらに、「ひとりひとりが地域の中で当たり前暮らし」という事業所理念の実践に向けて、地域にさらに理解や協力をいただけるよう、「事業所や認知症を知ってもらえるような取り組み」に工夫を重ねていかれてほしい。又、地域の方達とは、普段からの交流を積極的にすすめ、災害が起こったとしても協力し合えるような関係を作っていかれてほしい。運営推進会議等を通して、地域の情報を得たり、具体的な方策等について話し合い、すすめていかれてほしい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議のお誘いをするも、なかなか参加して頂けず積極的に貢献できていない状況である。来年はご近所さんにも声掛けして参加できるような夕涼み会を予定している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議の議題がマンネリ化しているため、参加者の数も少ないため、今後工夫をしていきたい。</p> <p>(外部評価) 昨年度は、区長や公民館長が会議に参加してくださっていたが、今年度は、地域役員の顔ぶれも替わり、事業所から会議の案内は出されているが、参加していただくことにはつながっていないようだ。5月の会議は、法人の催し物である「くじらふれあいフェスティバル」に合わせて会議とされており、利用者も参加して、地域の方々やご家族と交流された。バザー会場では、事業所職員が作ったちらし寿司を、2名の利用者が職員と一緒に販売された。8月の会議時には、今回の評価実施に際して「外部評価の目的や活かし方」について、管理者が説明された。</p>	<p>昨年度は、会議の開催が3回に留まっていたことから、今年度は定期的に会議が開催できるよう、心がけて取り組まれている。管理者は、今後、民生委員や中学校等にも声かけして、地域のいろいろな方に参加していただきたいと考えておられた。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議の議事録は市の介護課係へ必ず提出している。 毎月、さわやか相談員が2名訪問され意見をもらっている。</p> <p>(外部評価) 8月の運営推進会議では、市の担当者の方とも「多くのご家族が参加していただけるような会議の工夫」について意見交換された。来年度は、「家族会の代表者を決めて、ご家族間で誘い合って会議等に参加していただけるような仕組みを作る」ことを決められた。9月に実施した事業所の「夕涼み会」時には、介護相談員が複数参加してくださり、利用者と一緒に楽しまれた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日中、玄関は鍵をかけず自由に出入りできるようにしている。利用者は、玄関先に椅子を置き、外の景色を眺めたり通りかかる子供達に声をかけたりして開放的な時間を過ごしている。</p> <p>(外部評価) 調査訪問時、玄関は開放されていた。午前中は、できるだけ換気に努め、玄関や窓を開放するようになっている。玄関は、出入りするとチャイムが鳴るようになっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 入浴時や更衣時に身体状況を確認し、あざや傷があった場合は申し送りで情報を共有し原因解明に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 自立支援事業や後見人制度について知識のある職員は少なく勉強会の開催が必要である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居契約時は、契約書類に沿って解りやすい言葉で説明するように心掛けている。加算体制の変更時には、毎回説明文を送付して同意書を頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族が面会に来た時には必ず近況報告をして、その都度ご家族の意見や要望を聞けるようにしている。また、直接話にくいことや要望がある場合は意見箱を玄関においているので、利用してもらうよう声掛けしている。 (外部評価) 利用者個々の担当職員は、毎月、ご本人の暮らしぶり写真と載せたお手紙をご家族に送付されている。さらに管理者からも手紙も添えておられる。運営推進会議時、「来年度から家族会の代表を決めたい」ことを説明された際、ご家族から「いつもお世話になっているので、少しは協力したい」との声をいただいた。調査訪問時、ご家族の訪問があり、居室で利用者と過ごされていた。職員は、お茶を運び、ゆっくりと過ごしていただけるよう気配りをされていた。	管理者は、ご家族は「あずかってもらっている」という思いから遠慮があって、「意見や要望をいただくことが難しいのではないか」と感じておられる。事業所では、今後「アンケート方式」で意見や要望をいただくような取り組みをすすめたいと考えておられた。さらに、家族会設置も計画されており、利用する側からの意見や要望をさらに引き出せるよう、取り組みに工夫を重ねていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			月一回のスタッフ会や普段から話しやすい雰囲気を作り職員同士が意見交換を行い上層部へ相談する様にしている。	
			(外部評価)	
			職員は、「介護の基本」を学ぶ外部研修に参加して、ヒヤリハットの大切さを感じられ、事故防止につなげられるように、ヒヤリハット事例について話し合う場を設けられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			資格取得者の登用制度は充実している。労働時間の変更についても常にベストな時間帯にするよう部署によって柔軟な変更や対応が出来る環境にある。休憩時間も日によって違いはあるが30～40分程度はとれる様にしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			職員が希望する研修に参加できる環境を整えている。(費用、日程等)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			GH連絡協議会に加入し、他事業所との意見交換や情報交換を行っている。今年は管理者研修に参加した職員も居り、他事業所の方から刺激を受け、意欲的に仕事をこなしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前に必ず本人と面談を行い状態や状況を把握する様にしている。その際、本人の訴えを傾聴し、職員と施設に馴染んでいただくよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に一度はご家族との面談の時間を作りご家族が求めているものを理解して、本人にどのような対応が出来るか話し合いをしている。また、書面で説明を行い相談窓口をお伝えしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の話を傾聴し聞き役になり色々な話を引き出せるように努め必要なサービスに繋げるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 料理が得意な利用者には煮物の味付けをして頂いたり、歌が好きなお方には昔歌っていた唄を教えて頂いたりして趣味活動を楽しんでもらえるよう意識して共同生活を営んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月の行事を送付状でお知らせしている。今年5月の「くじらフェスティバル」に数人のご家族にも参加していただいた。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 最近まで遠くに住まれているお孫さんからハガキが届いたときには、利用者をご自分で返事を書けるように職員がサポートしていたが、現在はレベルが低下され文字を書ける状態ではないので、電話で時々話をして頂くように支援している。 (外部評価) 毎日、娘さんが来てくださり、一緒に散歩をされる利用者がおられる。利用者ご本人は、娘さんの訪問を楽しみに待っておられるようだ。息子さんとご自宅の様子を見に戻ったり、ドライブを楽しまれる方もある。ご自宅の郵便物を確認したり、必要なものを持って来られるよう、職員が付き添い支援している方もある。母体病院に入院中、お世話になった「リハビリの先生に会いたい」と希望する方には、職員が母体病院の方に用事のある時、一緒に行けるよう声をかけて、先生に会えるよう支援されている。事業所を退居して、ご家族と一緒に住むようになった方もおられ、管理者は、時々電話して、お変わりないかおしゃべりしながら様子を聞いておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 午前、午後に水分補給の時間を作っているので、全員がリビングに集まりお茶を飲みながら会話を楽しむ機会が設けられている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ホームを退居し入院された場合はお見舞いに伺っている。また適宜ご家族とも連絡を取り経過について伺うよう努力している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常の行動や作業等、本人の意向に沿って声掛けし不快感無く過ごしていただけるよう配慮している。また、利用者個々について一年間の生活の変化が解りやすいようなアセスメントシートを利用し、担当者が毎月記入し、職員全員が情報を共有している。 (外部評価) 入居時には、生活歴や趣味、性格等について、ご本人とご家族の双方から情報を得てアセスメントをされている。又、現在の希望については、「ステーキが食べたい」「ビールが飲みたい」「皆と仲良くして元気でいたい」等、ご本人から聞き取ったことを記録しておられる。	利用者ご本人、ご家族ともに「暮らしへの希望は特になし」と言われることもあり、具体的な暮らし方の希望を把握することに難しい面もあるようだ。さらに「利用者がその人らしい暮らしを続ける」ための情報収集に工夫して取り組み、得た情報をもとに、利用者やご家族に提案する等してはどうだろうか。ご家族もケアパートナーとして、ともに利用者を支えられるように、一緒に介護計画について話し合うような機会も作ってみてはどうだろうか。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) お手伝いをして人の役に立ちたい人や、外出が好きな人、それぞれの思いをお聞きしながら今までと変わらない生活を送れる様に援助している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 全てのスタッフが状態を把握できるよう介護記録に本人が発した言葉や態度を細かく記入し、その方の出来る事、得意な事を見極める努力をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 面談の際ホームの様子を見ていただき、その方にどのような対応が出来るかお話しするよう努めている。また面会時などに状態報告をした上で、希望や心配事をお聞きし介護計画に取り入れるようにしている。</p> <p>(外部評価) スタッフ会時には、利用者個々に「気になること」について話し合い、ケアマネジャーが計画を作成されている。ご家族へは、計画を郵送する等して見ていただいている。ほとんどのご家族が「これで、お願いします」との返事があるようだ。介護計画は、3ヶ月に一度見直しをされて、利用者個々の担当職員が毎月モニタリングを実施して、計画の見直しにつなげておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護記録にケアプランの内容を表記しプランに沿った本人の行動やスタッフの対応を記録している。ケアに変化がある時は、その都度スタッフ全員で話し合い変更している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入居サービス、認知症に対する相談窓口、健康管理、買い物付き添いなどニーズに対応して援助している。本人の体調に合わせて外部よりマッサージを行っていただいている方もおられる。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 消防署の協力で防火訓練を実施している。また、今年度よりボランティアを受け入れ音楽に合わせて体を動かす音楽療法も試している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医については、入居時に説明をし希望を聞く。ホームの主治医は決まってお月一回の往診や24時間支援体制が整っており対応してもらっている。症状により(歯科、眼科、皮膚科等)本人や家族の希望する医療機関への対応も行っている。	
			(外部評価) かかりつけ医が協力医療機関の方は、毎日身体の状態をファックスにて送信しておられ、医師に利用者のその日の状態を報告されている。その他の医療機関を受診する方は、ご家族が付き添うようになっている。交通事故の心配から、法人では、今年度よりご家族が受診に付き添うことが難しい場合は、介護タクシーを利用して、職員が付き添うことになっている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 毎日、利用者の状態報告を主治医にファックスで送り、その報告書を看護師も把握しており、訪問日ではなくても気になることがあれば、ホームに寄ってもらい、対応を相談、助言してもらえる。	
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には情報提供書を病院へ届け定期的にお見舞いに行き必要な情報を提供して、状態の確認を相互にしながら早期退院出来るように協力している。	
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に話し合い希望をお聞きし、ホームで出来ること、出来ないことを説明する。本人の状態の変化により本人やご家族の考え方を考慮しながら、定期的に話し合う場を設けたい。今後ターミナルケアの希望に応じられるよう積極的に勉強会へ参加したい。	
			(外部評価) 入居時、事業所で作成した「医療連携の指針」をもとに、事業所で出来ること・出来ないことや、「看取り支援には、ご家族の協力が必要」などを説明されている。遠方に住むご家族等もあり、「家族の協力」が難しく、現在、最期は入院となる場合がほとんどである。 事業所では今後、看取り支援について、法人が貸し出している資料やDVD等をもとにして、職員で勉強会を行うことを計画されていた。終末期のあり方について、利用者ご本人の希望等を探り、利用者主体の支援を実践できるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。又、運営推進会議や家族会等でも議題に挙げて、いろいろな方と話し合うような取り組みも期待される。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署での救命救急講習に参加し、救急方法を学んでいる。また急変や事故発生時に備えてマニュアルを作成し職員全員に習知をしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時対応マニュアルを作成し、避難場所については地域では決まっているが、ホームの利用者には適切な場所とは思えないため検討中である。スタッフ会で、緊急時に備え掃き出し窓からの車いすの避難方法や、動けない方を毛布でくみ移動する方法を実際に行った。	
			(外部評価) 4月の運営推進会議時、消防署の協力をいただき、敷地内にある法人託児所と合同で、昼間の火災を想定した避難訓練を実施された。消防署からは、掃き出し窓から救出した場合、「利用者が再度、窓から中に入らないように窓の鍵を閉める」ようアドバイスをいただいた。ご家族も3名参加され、又、利用者も一緒に消火器の使い方を実験された。今秋には、事業所独自で夜間の火災を想定した訓練を行う予定となっている。地震を想定した避難訓練は、来年度実施予定であり、津波警報が出された時は、7階建てである法人本部に避難するようになっている。水・粥・お菓子等は備蓄をされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の出来る事、出来ない事を把握し、適切な対応をするよう心がけている。 失敗を責めたり、大きな声を出すことなく穏やかに接するように心掛けている。	
			(外部評価) 事業所は、「人間の尊厳を大切に生きていく」支援に向けて取り組まれており、管理者は、スタッフ会等で、利用者へ「強制しない」ことを話しておられる。職員は、利用者個々の生活歴等、「過去のことを知った上で、利用者とのコミュニケーションをとる」よう心がけておられる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定を促すよう、ゆっくりとした対応に心掛け、時間をかけ傾聴している。意思表示が出来にくい方へは、選べる声かけに気をつけ自己決定を行えるよう働きかけている。また、日常生活の会話の中で本人の好きなもの、行きたい場所等聞き取り献立や外出支援につなげている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペース・意志をを大切に、日常の作業や日課は様子を伺いながら援助している。また、希望があれば散歩や買い物、入浴の時間等優先し援助できるよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴や外出時には本人の着たい服を選んでもらうよう援助している。また、希望を伺い出張理容を利用している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者に米を研いでもらったり、食事の準備をお願いし職員と一緒に作る楽しみを感じてもらおう。また、ボードに献立を書いて頂き、掲示して食事への楽しみに繋がるよう努めている。	
			(外部評価) 法人内の6グループホームが順番で2ヶ月分ずつの献立を立てるようになっており、その献立をもとにして食事作りをされている。事業所で献立を立てる際には、利用者にも希望をお聞きして、旬の食材やお好きなものを採り入れた献立を作っておられる。調査訪問時、利用者はサラダに使うレタスをちぎったり、卵の殻むきをされていた。利用者の前の席に座っている食事がすすまない方に、「ご飯ですよ。美味しいよ」と利用者が声をかけてあげるような場面がみられた。片手の不自由な方のお膳は、すべらないように食器の下に滑り止めシートを敷いておられた。週に1度、朝食の主食がパンの日があるが、ご飯の方がお好きな方は、ご飯にされている。誕生日は、ご本人に食べたいものをお聞きして、昼食のメニューに採り入れるようにされている。外出時、時には、牛丼店で持ち帰りしたり、「ほか弁」で利用者個々にお好きなお弁当を選んで買って帰ったり、外出先で食べたりすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎日、食事量と水分量の記録を行い摂取量を把握している。水分量の少ない方へは好みの飲み物をお聞きし、水分の確保に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、歯磨き・義歯洗浄を行って頂いている。本人の能力に合わせ声かけ・見守り・仕上げ磨きの補助を行っている。義歯を使用している方には夜間、義歯洗浄剤を使用している。また、近隣に歯科があり希望に応じ受診・往診の支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行いトイレでの排泄に向けた支援を行っている。また、トイレの使用が困難な方や、夜間歩行不安定で転倒の危険が大きい方には自室にP-トイレを設置しておむつの使用を減らす支援に努めている。</p> <p>(外部評価) 退院時、紙オムツを使用されていた方も、紙パンツを使用して、職員が声かけてトイレ誘導等、ご本人のペースに合わせて、段階を追って支援することで、現在では、布パンツを使用して自立している方がおられる。夜間もご自分でトイレに行かれる方もあるが、「夜は目が見え難い」等、個々の状態に応じて、居室でポータブルトイレを使用されている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 毎日、排便の有無をチェックし自然排便の促すよう、繊維の多い野菜・乳製品の摂取やこまめな水分補給に努めている。また、毎朝ラジオ体操を行い体を動かす支援も行っている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 時間を指定される方には希望の時間に入浴してもらっている。浴槽が広く足を伸ばせゆったりと入れる浴槽は利用者に人気がある。</p> <p>(外部評価) 基本的に、午後からが入浴時間となっている。「一番風呂に入りたい」「2時30分から入りたい」等、日によって希望する方もあり、希望に沿った支援に努めておられる。気の合う方同士、2人に入る方もある。浴槽が広くて深いこと等から、職員2人介助で入浴する方は、主にシャワー浴となっているが、週に1度は湯船で温まれるように取り組まれている。利用者の好みや肌質によって選べるように、固形石けんとボディソープが準備されていた。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 夜間安眠できるよう散歩や作業への参加を促し、日中の活動に心掛けている。就寝前は個々の思うようにゆったりと過ごして頂き就寝時間を決めず眠れなくなったら休んで頂けるよう支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の薬情報を事務所で保管し、すぐ確認できるように把握に努めている。内服は個々に合わせ補助を行い、確実に内服できたか最後まで確認を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来る事を役割として洗濯物干し・たたみ・新聞折り・米研ぎ等してもらっている。また、季節に応じて年に数回全員で外出する機会を設けている。自分の家の郵便物を定期的に取りに帰る方も居られる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望に添って散歩や買い物の支援に努めている。また、天気の良い日は日光浴を兼ね外でおやつを食べたり、ホーム周辺への散歩など戸外への支援を行っている。	
			(外部評価) 天気のよい日は散歩に出かけたり、事業所の敷地内で、外の景色を見ながらおやつを食べることもある。近所に魚屋があり、散歩がてら注文しておいた食材の魚を取りに行かれることもある。毎月、車椅子用の体重計を法人内で回して使用していることから、次の事業所に届ける時に、ドライブがてら一緒に出かける方もおられる。地域の商店街で毎月開催される「八日市」や、スーパー、ドラッグストア等で、おやつ等、好きなものを買うような機会も多く作っておられる。現在、利用者から「服が見たい」等と外出希望もあって、職員は、今後、利用者一人ひとりにゆっくりと時間をとって、「買い物レクを実施したい」と話しておられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在は、ホームの立て替え金で対応している方が多い。が買い物に行った際、お金を支払う機会を作り以前と同一様な生活を送れるよう援助している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙や荷物が届いた際はお礼の電話で本人が話せるような支援をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) リビングに温度計と湿度計を設置し室温や湿度を常に観察し温度調節に配慮している。西日が入る居室には日よけの立簾を購入し利用している。	
			(外部評価) 玄関には、散歩時に摘んで来られたツユクサ等の草花を花瓶に生けておられた。玄関を入ると外を眺められる場所にソファが設置されており、利用者はお気に入りの場所で外を眺めておられた。居間のテレビの前にもソファがあり、時代劇のお好きな方が、座ってテレビを見ておられた。壁には、大きくプリントした行事の写真や、職員の赤ちゃんの写真・命名札等を貼っておられた。事業所の敷地には畑があり、秋にはサツマイモの収穫をされるようだ。又、玄関前にはプランターに菊の花が植えてあり、利用者が水やりをされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング内にソファを三カ所と食卓を設置し、思い思いに座られテレビを見たりお茶を飲みながら会話を楽しんでもらっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎日新聞を読むことを楽しみにしている方の部屋には、枕元に電気スタンドが置かれていたり、ご家族の写真を飾っている方もおられ、それぞれが好みの部屋になるよう配慮している。	
			(外部評価) タンスやテレビを持ち込まれている。ご家族が季節毎に衣類の入れ替えに来てくださるご家族もいる。壁にお好きなアイドルのポスターを貼っておられる方があり、調査訪問時、「○○くん、大好き」と話してくださった。カレンダーに、入浴した日に「オフロ」とご自分で書く方がおられ、「忘れんように、書いてくのよ」と教えてくださった。読書がお好きな方は、夜間、寝床で電気スタンドを点けて、歴史の本や雑誌、新聞等を読んでもらわれる。フローリングワイパーで床掃除をされる利用者の様子がみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレの場所が解るように「便所」の貼り紙をしたり、床にテープを貼り目的の場所まで行けるように配慮している。	